

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	岐阜県岐阜市美島町1丁目18番地		
自己評価作成日	平成29年6月1日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?act_i.on_kouhyou_detai_1_2016_022_kami_tru&sj_gvovsOd=2190103768-00&PrEfOd=21&Ver:si.onOd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成29年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が安心して生活が送れるよう、一人ひとりの趣味や嗜好などを把握、買い物や外出などの個別支援を行っています。またボランティアの方たちの協力のもと施設に訪問していただき、津軽三味線、漫談、音楽会などを行い楽しんでいます。いちご狩りや金華山ドライブや近所の公園に散歩に出かけたり年間を通し季節を肌で感じて頂けるよう工夫しています。入居者と職員が一つの家族のようにとともに支え合い笑いの絶えないグループホームを築いています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気を大切にし、利用者一人ひとりが安心して笑顔で生活が出来るように職員間で話し合せて取り組んでいる。何年も会っていない姉妹が入所している介護福祉施設から「会いたがっている」と連絡があり、利用者・家族に相談して事業所間で連携し愛知県の施設まで面会に出掛けた。社協より福祉バスを借りて家族と一緒にイチゴ狩りにも出掛けている。家族に協力を依頼して生家へ3泊の外泊した利用者もいる。入居時に食欲不振な方や食事が全介助であった方が、工夫や働きかけにより食欲が回復し自分で食べることが出来るようになり職員のやりがいに繋がっている。利用者の思いが叶えられるように職員間で話し合いながら臨機応変に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「人とひととの絆を大切に思いやりの心を持ちいつも笑顔で介護活動につとめます」をモットーに職員全員で共有し実践しています	事業者内に理念を掲示し、管理者は介護業務を行いながら申し送りで理念について話している。職員は、利用者や家族に常に笑顔で接することを心掛け信頼が得られるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度から、自治会の副会長を務めさせていただき、行事などに参加させていただき事業所として地域貢献できるよう努めている	管理者は自治会の役員を引き受け地域とのつながりが密になるように取り組んでいる。散歩に行く公園で子供と触れ合ったり、天気の良い日は駐車場でラジオ体操し近所の方と交流したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事などに参加し、認知症の方々に対する偏見や誤解を払拭できるよう努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の現況報告を行い、意見交換を行い、サービス向上に活かしています	新しいメンバーにグループホームについて説明し理解を得ている。外部評価の結果を報告し改善に向けてアドバイスを受けた。水害の時浸水想定区域となっているため地域の高齢者の避難場所にしたいと伝えて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みなどを報告するほか、市役所に行き分からない事などを相談し助言を受けています	職員は、市の担当者に分からないことを聞いたり事業所の現状を報告したりしている。包括支援センターから紹介され生活保護の利用者を受け入れた。担当者が来所したとき状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束になるか常日頃から話し合いながら、職員も自分が介護される立場になり身体拘束について理解しながら取り組んでいる	身体拘束をしないことや身体拘束の弊害について家族に説明し理解を得ている。職員には、入職時に事業所の方針を説明している。管理者は、申し送りで身体拘束について説明し話し合っているが計画的に研修等が行われていない。	外部研修会への参加や定期的な研修会など身体拘束について学ぶことができるように工夫して欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護等の研修会などに参加し、研修で学んだ事をミーティングなどで発表し、日々のケアを振り返り虐待防止に努めています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には、岐阜市社会福祉協議会の日常自立支援制度や後見制度を活用しながら支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族の方と十分話し合いをし、入居後も疑問点や不安なことなど随時相談できる体制をとっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の方から意見や要望、苦情が出たときミーティングで話し合いをし、管理者が運営推進会議で発表し、相談、助言を受け運営に反映させている	家族の面会時や電話にて「笑顔が増えた」「食事を摂れるようになった」など生活の様子を伝え意見や要望を聞いている。帰宅や墓参り、外食など利用者の要望を家族に伝え出掛けることができるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換や提案を聞いたり、個別に意見を聞き運営に反映できるよう取り組みをしています	管理者は、日常的に介護業務を行い個々に意見や要望を聞いて申し送りで話し合っている。定期的なミーティングを行っておらず申し送り時や個別での対応となっているため全職員で話し合うことが出来ていない。	広く職員の意見や要望を聞く機会を設け、出された意見や要望について職員間で話し合うなどの工夫を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況や努力を評価し、給与の見直しや賞与を支給できるよう務めている。有給休暇など取りやすい環境にし職員が無理なく勤務できるよう務めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに参加し、職員がスキルアップできるよう取り組んではいますが、職員数に余裕がなくすべての職員が研修等に参加できないのが現状です		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の管理者と話し合いをしたり、相互訪問し他の事業所の優れた点を学び施設の運営に反映しています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の不安な事や困りごとを傾聴し、本人が安心して信頼できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時家族の方の話を傾聴し、不安な事、困っている事を共感しながら、信頼関係を築けるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、どのような支援が必要かを見極め、他のサービスも検討しながら対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の能力を見て無理なく、洗濯や食器洗いなどを職員と共にやり支え合いながら日々を過ごしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設任せにならないよう、定期的に現在の様子を見に来て頂いたり、本人が不安な時などは、家族の方に電話をかけ、話をしてもらうなどをし本人と共に支え合える関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の方など大切な方との関係が途切れないよう面会に来られたり、定期的に自宅に戻り家族の方と過ごして頂いたりして、関係が途切れないよう支援しています	家族に面会や外出を依頼している。知人にも面会や外出などお願いすることもある。数年会っていない姉妹が入所している介護福祉施設から会いたいと連絡があったため、事業所間で連携して職員が送迎して面会に出掛けた方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、入居者同士の関係性を把握し、入居者同士が助け合い、支え合えるような関係を築けるよう支援しています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了すると、本人、家族の方と疎遠になっているのが現状です。契約終了後も相談援助できるよう取り組んでいきたいです		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話を聞く機会を設け、本人の希望や意向を聞き可能な限り本人の希望や意向に沿えるよう支援しています	昔の歌を流したり、話をしたりして雰囲気を作り思いや意向を聞いている。困難な方には、言葉を掛けたときの表情やしぐさなどを見逃さないようにして把握し職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人の方から、これまでの生活歴やなじみの暮らし方などの情報収集をし、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、入居者の方の気分や体調に合わせて無理のないよう過ごせるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、管理者、ケアマネ、職員、本人、家族と話し合いをし、きずき、アイデアを反映し、現状に合わせた介護計画を作成しています	100歳までこの事業所で暮らしたいという利用者の思いや家族の意向を反映させた計画を作成している。定期的にモニタリングを行い職員の気付きやアイデア、医師の意見を取り入れた計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をもとに、管理者、ケアマネ、職員で話し合い情報共有しながら、ケアプランの見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、家族、本人と話し合い訪問リハビリや、訪問看護を使いながら支援しています。家族の方が通院ができない場合はなど職員により通院介助を行っています。		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日には、近くの公園に散歩へ出かけたり、春には施設の近くの川沿いに桜見学に出かけたり、スーパーに買い物に出かけたりするなどし地域資源を利用し楽しく暮らせるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、以前から通っている病院に家族の方と通院されたり、当施設の協力医では24時間対応にて急変時にも敏速に対応し入居者の方々が安心できるよう支援しています	家族の協力を得てかかりつけ医を受診している。家族が受診する時は、体調など記入した書面を渡している。受診後に変わったことがあった場合は職員からかかりつけ医に連絡し指示を受けている。状態の変化に応じて家族とかかりつけ医に相談して協力医に変更する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、異変や異常が見られた場合細かく症状を記録し主治医、看護師に指示を仰ぎ適切な医療を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを活用し、日々の様子を細かく説明しています。定期的に本人の様子を見に行き担当看護師の方から現在の様子を聞き、退院後の対応の仕方などを話し合いながら病院関係者の方との関係を築いています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人、家族の方と話し合いをし、意思や意見を尊重しながらしながら終末期の方針を決め、主治医、訪問看護、家族、職員で協力しながら可能な限り住み慣れた施設で看取りができるよう取り組んでいます	契約時、家族に終末期の対応について確認している。利用者とも日常会話の中で意向の確認を行っている。状態の変化に伴い早目に家族へ相談し、意向に添えるように取り組んでいる。協力医は24時間対応可能であり訪問看護の協力を得て支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを置いていますが、定期的に訓練が行えていないのが現状です。今後定期的に訓練を実施していきます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。災害が起きたとき訓練通り避難できるか心配があります。今後は水害等を想定した訓練を実施すると共に、地域の方々と助け合えるよう努めています	夜間想定も含めて年2回訓練を行っている。管理者は地域の避難訓練に参加し事業所に協力が得られるように依頼している。毛布や手洗い用の水などは備蓄しているが飲用水や食料については備蓄していない。	災害発生時に必要な物品について運営推進会議等で話し合い計画的に備蓄できるように取り組んで欲しい。

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格などを把握し、呼び方や態度接し方など十分配慮し相手を敬う気持ちを大切に対応しています	入浴や排泄の時に異性の介助を拒まれる方には同性介助を行っている。利用者の意思を大切に考え無理強いをしないようにしている。家族の承諾を得て利用者が呼んで欲しい呼び方で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人に寄り添い思いや希望を傾聴し、自己決定できるよう努めている。困難な場合は本人本位で検討し支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでその日の体調や気分に合わせて、レクリエーションや散歩等無理なく本人の希望に合わせて支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味や拘りを大切にし髪形や洋服など個々におしゃれを楽しんでいただき、その人らしさを活かせるよう支援しています。男性の方は毎日髭剃りをし清潔感を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせて、刻み食、軟飯、お粥ペースト食を提供し美味しく安全に食事ができるよう支援しています。職員と一緒に食器洗いや片付けをしています	利用者の体調や気分に合わせて時間をずらすなど食べたい時に食事している方もある。利用者の好きな献立やおやつ作り、外食に出掛けている。家庭的な雰囲気を大切に考え会話しながら楽しく食事が出来るように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分や「食事量をチェックし必要な栄養が取れるよう支援しています。食欲がないときや体調が悪いときなどは、口当たりにの良いものを提供し水分や栄養を確保しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて毎食ご口腔ケアを実施しています。歯科衛生士の方から口腔ケアの指導を受けています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて個々の排泄時間などを把握し、トイレ誘導をし、残存能力を生かしてできる限りオムツを使用しないように支援しています	排泄記録からパターンを把握して夜間帯も含めてトイレ誘導している。利用者の仕草や行動を職員間で話し合っ自立支援に取り組んでいる。オムツからリハビリパンツへと改善した方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、乳製品や食物繊維の豊富な物を提供し自然に排便ができるよう工夫し、便秘がちな方は医師と相談し下剤を使用し排便コントロールをしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は職員都合になっていますが、体調を見ながらゆっくり入浴を楽しめるよう支援しています。異性介助者を嫌がられる方には同性介助者で対応をし羞恥心に配慮しながらしえんしています	一人でゆっくりと湯船に浸かりたい方には浴室の外から見守ったり、一緒に歌を歌ったりして気持ち良く入浴できるように心掛けている。車椅子の方でもシャワーチェアを活用して入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こまめに布団干しや寝具類を洗濯し清潔さを大切にしています。夜間不眠の方などは原因を考え、ゆっくり休息できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し、日中や夜間時など様子などを話し合い、薬担当者が主治医に症状を詳しく説明し薬の追加変更、中止の指示を受け個々に合わせた服薬支援をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の得意な事、楽しみごとを把握し日々の生活に取り入れ、張り合いや、喜びを感じて頂けるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設でも外出支援を行っていますが、家族の方々との協力で、自宅に帰られたり、外食やお墓参りなど本人の希望に寄り添いながら支援しています	福祉バスを借り、家族に参加を募って一緒にイチゴ狩りに出掛けている。事業所の車で金華山等ドライブを楽しんでいる。利用者の希望にそって個別に本や服を買いに出掛けている。事業所より家族に外泊や外泊の協力を依頼している。	

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金管理することが困難なため、家族の方にお金を預かり、可能な方は買い物など行かれた時本人に渡して支払いをしていただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話などされませんが、職員の援助により家族の方や友人の方に電話をかけたり職員と一緒に暑中見舞いや年賀状を作成し家族や友人の方などへ送れるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にし、季節ごとに飾り付けをしカレンダー以外でも今の季節が分かるよう工夫しています。入居者の方の、塗り絵や作品を掲示し明るい雰囲気を出せるようにしています	事業所内を明るく居心地良く過ごせるように壁などを改修している。リビングには季節の花や利用者が描いた四季折々の絵、季節を感じる品物を飾り季節感を醸し出している。廊下にドライブや誕生会など行事の写真が飾り話題にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、リビングルームの席の配列などを考慮し、各フロアにベンチ、ソファを置き、会話をしたり休息できるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の方と相談し、本人が落ち着いて暮らせるよう、馴染みの物や写真や使い慣れた物を居室に置き居心地よく暮らせるよう工夫している	テレビやラジオ、タンス、椅子など使い慣れたものを持ち込んだり、遺影や家族の写真、作品など思い出のあるものを飾ったりしている。職員は、居室の空調管理を心掛けて快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、入居者の方が安全に、暮らせるよう工夫しています。居室内は、個々に合わせて使いやすい場所に家具を配置しています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103768		
法人名	(株)グレースホーム		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	岐阜県岐阜市美島町1丁目18番地		
自己評価作成日	平成29年6月1日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai&1_2016_022_kani=TRUE&gvsvoCd=2190103768-00&PrEfCd=21&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年7月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方が安心して生活が送れるよう、一人ひとりの趣味や嗜好などを把握、買い物や外食などの個別支援を行っています。またボランティアの方たちの協力のもと施設に訪問していただき、津軽三味線、漫談、音楽会などを行い楽しんでいます。いちご狩りや金華山ドライブや近所の公園に散歩に出かけたりし年間を通し季節を肌で感じて頂けるよう工夫しています。入居者と職員が一つの家族のようにとともに支え合い笑いの絶えないグループホームを築いています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「人とひととの絆を大切に思いやりの心を持ちいつも笑顔で介護活動につとめます」をモットーに職員全員で共有し実践しています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度から、自治会の副会長を務めさせていただき、行事などに参加させていただき事業所として地域貢献できるよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事などに参加し、認知症の方々に対する偏見や誤解を払拭できるよう努めています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の現況報告を行い、意見交換を行い、サービス向上に活かしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みなどを報告するほか、市役所に行き分らない事などを相談し助言を受けています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなことが身体拘束になるか常日頃から話し合いながら、職員も自分が介護される立場になり身体拘束について理解しながら取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護等の研修会などに参加し、研修で学んだ事をミーティングなどで発表し、日々のケアを振り返り虐待防止に努めています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方には、岐阜市社会福祉協議会の日常自立支援制度や後見制度を活用しながら支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族の方と十分話し合いをし、入居後も疑問点や不安なことなど随時相談できる体制をとっています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の方から意見や要望、苦情が出たときミーティングで話し合いをし、管理者が運営推進会議で発表し、相談、助言を受け運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に意見交換や提案を聞いたり、個別に意見を聞き運営に反映できるよう取り組みをしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状況や努力を評価し、給与の見直しや賞与を支給できるよう務めている。有給休暇など取りやすい環境にし職員が無理なく勤務できるよう務めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修などに参加し、職員がスキルアップできるよう取り組んではいますが、職員数に余裕がなくすべての職員が研修等に参加できないのが現状です		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の管理者と話し合いをしたり、相互訪問し他の事業所の優れた点を学び施設の運営に反映しています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人の不安な事や困りごとを傾聴し、本人が安心して信頼できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時家族の方の話を傾聴し、不安な事、困っている事を共感しながら、信頼関係を築けるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	モニタリングを行い、どのような支援が必要かを見極め、他のサービスも検討しながら対応しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々の能力を見て無理なく、洗濯や食器洗いなどを職員と共に行い支え合いながら日々を過ごしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設任せにならないよう、定期的に現在の様子を見に来て頂いたり、本人が不安な時などは、家族の方に電話をかけ、話をしてもらいなどをし本人と共に支え合える関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族の方など大切な方との関係が途切れないよう面会に来られたり、定期的に自宅に戻り家族の方と過ごして頂いたりして、関係が途切れないよう支援しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から、入居者同士の関係性を把握し、入居者同士が助け合い、支え合えるような関係を築けるよう支援しています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了すると、本人、家族の方と疎遠になっているのが現状です。契約終了後も相談援助できるよう取り組んでいきたいです		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話を聞く機会を設け、本人の希望や意向を聞き可能な限り本人の希望や意向に沿えるよう支援しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人の方から、これまでの生活歴やなじみの暮らし方などの情報収集をし、その人らしい生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、入居者の方の気分や体調に合わせて無理のないよう過ごせるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、管理者、ケアマネ、職員、本人、家族と話し合いをし、きずき、アイデアを反映し、現状に合わせた介護計画を作成しています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をもとに、管理者、ケアマネ、職員で話し合い情報共有しながら、ケアプランの見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、家族、本人と話し合い訪問リハビリや、訪問看護を使いながら支援しています。家族の方が通院ができない場合はなど職員により通院介助を行っています。		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日には、近くの公園に散歩へ出かけたり、春には施設の近くの川沿いに桜見学に出かけたり、スーパーに買い物に出かけたりするなどし地域資源を利用し楽しく暮らせるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、以前から通っている病院に家族の方と通院されたり、当施設の協力医では24時間対応にて急変時にも敏速に対応し入居者の方々が安心して暮らせるよう支援しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で、異変や異常が見られた場合細かく症状を記録し主治医、看護師に指示を仰ぎ適切な医療を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを活用し、日々の様子を細かく説明しています。定期的に本人の様子を見に行き担当看護師の方から現在の様子を聞き、退院後の対応の仕方などを話し合いながら病院関係者の方との関係を築いています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人、家族の方と話し合いをし、意思や意見を尊重しながらしながら終末期の方針を決め、主治医、訪問看護、家族、職員で協力しながら可能な限り住み慣れた施設で看取りができるよう取り組んでいます		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを置いていますが、定期的に訓練が行えていないのが現状です。今後定期的に訓練を実施していきます		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施しています。災害が起きたとき訓練通り避難できるか心配はあります。今後は水害等を想定した訓練を実施すると共に、地域の方々とは助け合えるよう努めています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格などを把握し、呼び方や態度接し方など十分配慮し相手を敬う気持ちを大切に対応しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が本人に寄り添い思いや希望を傾聴し、自己決定できるよう努めている。困難な場合は本人本位で検討し支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでその日の体調や気分に合わせて、レクリエーションや散歩等無理なく本人の希望に合わせて支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の趣味や拘りを大切にし髪形や洋服など個々におしゃれを楽しんでいただき、その人らしさを活かせるよう支援しています。男性の方は毎日髭剃りをし清潔感を大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせ、刻み食、軟飯、お粥ペースト食を提供し美味しく安全に食事ができるよう支援しています。職員と一緒に食器洗いや片付けをしています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分や食事量をチェックし必要な栄養が取れるよう支援しています。食欲がないときや体調が悪いときなどは、口当たりにの良いものを提供し水分や栄養を確保しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて毎食ご口腔ケアを実施しています。歯科衛生士の方から口腔ケアの指導を受けています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて個々の排泄時間などを把握し、トイレ誘導をし、残存能力を生かしてできる限りオムツを使用しないように支援しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、乳製品や食物繊維の豊富な物を提供し自然に排便ができるよう工夫し、便秘がちな方は医師と相談し下剤を使用し排便コントロールをしています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は職員都合になっていますが、体調を見ながらゆっくり入浴を楽しめるよう支援しています。異性介助者を嫌がられる方には同性介助者で対応をし羞恥心に配慮しながらしえんしています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こまめに布団干しや寝具類を洗濯し清潔さを大切にしています。夜間不眠の方などは原因を考え、ゆっくり休息できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有し、日中や夜間時など様子などを話し合い、薬担当者が主治医に症状を詳しく説明し薬の追加変更、中止の指示を受け個々に合わせた服薬支援をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の得意な事、楽しみごとを把握し日々の生活に取り入れ、張り合いや、喜びを感じて頂けるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設でも外出支援を行っていますが、家族の方々の協力で、自宅に帰られたり、外食やお墓参りなど本人の希望に寄り添いながら支援しています		

グループホーム あすか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金管理することが困難なため、家族の方にお金を預かり、可能な方は買い物など行かれた時本人に渡して支払いをしていただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が自ら電話などされませんが、職員の援助により家族の方や友人の方に電話をかけたり職員と一緒に暑中見舞いや年賀状を作成し家族や友人の方などへ送れるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にし、季節ごとに飾り付けをしカレンダー以外でも今の季節が分かるよう工夫しています。入居者の方の、塗り絵や作品を掲示し明るい雰囲気を出せるようにしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係を把握し、リビングルームの席の配列などを考慮し、各フロアにベンチ、ソファを置き、会話をしたり休息できるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の方と相談し、本人が落ち着いて暮らせるよう、馴染みの物や写真や使い慣れた物を居室に置き居心地よく暮らせるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、入居者の方が安全に、暮らせるよう工夫しています。居室内は、個々に合わせて使いやすい場所に家具を配置しています		